第５章　戦争遺跡の保存・活用事例

第５章　戦争遺跡の保存・活用事例

1　平和学習拠点の形成事例

本調査では平和学習拠点として、①平和・戦争に関する資料の展示・貸出を行っている機関・施設等、②平和・戦争に係る記念物等を有する地域・機関・施設、③平和に関する活動（研究、調査、啓発等）などを実施している機関・施設などの３つについて把握を行った。

(1)拠点の設置動向

関係書籍、ホームページ検索などにより把握できた平和学習拠点としては、図表5-1のとおり、北海道から沖縄県まで全国の都道府県で設置されている。

設置者は、国・地方公共団体・自衛隊などによって設置されている公設タイプのほかに、大学・学術機関、宗教法人、財団法人などの公益法人、個人など、多様化している。また、料金（入場料、使用料等）については無料のところが多く、最も高額なところでも800円に留まっている。

図表5-1　全国の平和学習拠点の設置・運営状況

県名	名称	所在地	運営	料金	ＨＰ
北海道	ノーモアヒバクシャ会館	札幌市	民	無料	×
	朱鞠内・笹の墓標展示館	雨竜郡「幌加内町	民	無料	△
	北鎮記念館	旭川氏	自衛隊	無料	△
	平和祈念館	山越郡長万部町	町	無料	△
青森	八甲田山雪中行軍遭難資料館	青森市		200円	△
	北洋館	むつ市	自衛隊	無料	△
宮城	仙台市戦災復興記念館	仙台市	市	100円	△
福島	戦災民俗資料館	郡山市	個人	無料	
	福島県立博物館	会津若松市	県	250円	
新潟	山本五十六記念館	長岡市		500円	×
茨城	神栖歴史民俗資料館	鹿島郡神栖町	町	無料	×
	日立市郷土博物館	日立市	市	無料	
	桜花公園	鹿島市	市	無料	×
	満蒙開拓青少年義勇軍訓練所跡・日輪舎	東茨城郡内原町	町	無料	
	(財)茨城郷土部隊資料館	ひたちなか市	自衛隊	無料	×
	雄翔館（予科練記念館）	稲敷郡阿見町	自衛隊	無料	△
栃木	防衛資料館	宇都宮市	自衛隊	無料	△
	栃木県立博物館	宇都宮市	県	250円	
群馬	中之条町歴史民俗資料館	吾妻郡中之条町		200円	△
	群馬県立歴史博物館	高崎市		200円	○

県名	名称	所在地	運営	料金	ＨＰ
埼玉	翁抗日反戦美術館	羽生市	個人	無料	
	吉見百穴	比企郡吉見町		150 円	
	修武台記念館	狭山市	自衛隊	無料	
	原爆の図　丸木美術館	東松山市		700 円	○
	埼玉県平和資料館	東松山市		100 円	
千葉	空挺館・資料館	船橋市	自衛隊	無料	△
	千葉県立中央博物館	千葉市		無料	○
東京	昭和館	千代田区		300 円	○
	靖国神社・遊就館	千代田区	法	500 円	○
	東京都戦没者霊苑遺品展示室	文京区		無料	×
	東京都江戸東京博物館	墨田区	都	500 円	○
	復興記念館	墨田区	都	無料	△
神奈川	地球市民かながわプラザ　国際平和展示室	横浜市	県	500 円	○
	かながわ平和祈念館	横浜市	法	無料	△
	川崎市平和館	川崎市		無料	
長野	戦没画学生慰霊美術館　無言館	上田市		随意制	
	長野県立歴史館	更埴市		300 円	
静岡	静岡平和資料センター	静岡市		無料	
	浜松復興記念館	浜松市		無料	
長野	戦没画学生慰霊美術館　無言館	上田市		随意制	
	長野県立歴史館	更埴市		300 円	
静岡	静岡平和資料センター	静岡市		無料	
	浜松復興記念館	浜松市		無料	
愛知	名古屋市博物館	名古屋市		300 円	
	半田市博物館	半田市		無料	
	瀬戸市歴史民俗資料館	瀬戸市		100 円	
	愛知平和記念館	名古屋市		無料	
三重	陸上自衛隊航空学校資料館	度合郡小俣町	自衛隊	無料	
	資料館	久居市	自衛隊	無料	
	三重県護国神社遺品史料室	津市		無料	
	香良洲町歴史資料館	一志郡香良洲町		200 円	
	四日市市立博物館	四日市市		210 円	
岐阜	東白川村平和祈念館	加茂郡東白川村		無料	
石川	石川県立歴史博物館	金沢市		250 円	
京都	資料館	福知山市		無料	
	丹波マンガン記念館	北桑田郡京北町		800 円	
	彰史館	宇治市	自衛隊	無料	
	舞鶴市立赤れんが博物館	舞鶴市		300 円	
	舞鶴引揚げ記念館	舞鶴市		300 円	
	舞鶴館	舞鶴市		無料	
	海軍記念館	舞鶴市	自衛隊	無料	
	「山宣」資料室	宇治市		非公開	
	平和資料事業センター	京都市			
	立命館大学　国際平和ミュージアム	京都市		300 円	

県名	名称	所在地	運営	料金	ＨＰ
和歌山	平和祈念資料館 寺中美術館	和歌山市 和歌山市		無料 500 円	
大阪	堺市平和と人権資料館 吹田市　平和祈念資料館 大阪国際平和センター	堺市 吹田市 大阪市		無料 無料 250 円	
兵庫	姫路市平和資料館 アンネ・フランク資料館	姫路市 西宮市		200 円 無料	
岡山	柴田平和祈念館 日植（海軍）記念館	川上郡成羽町 津山市		無料 無料	
広島	ホロコースト記念館 教育参考館 福山市人権平和資料館 大久野島毒ガス資料館 広島平和記念資料館（原爆資料館）	福山市 安芸郡江田島町 福山市 竹原市 広島市	自衛隊	無料 無料 100 円 無料 50 円	
香川	高松市市民文化センター平和記念室	高松市		無料	
高知	平和資料館・草の家	高知市		無料	
福岡	北九州平和資料館準備室 大刀洗平和記念館 兵士・庶民の戦争資料館	北九州市 朝倉郡三輪町 鞍手郡小竹町		無料 500 円 無料	
大分	予科練資料館	大分市		無料	
長崎	海上自衛隊佐世保資料館 岡まさはる記念　長崎平和資料館 平和祈念館天望庵 浦頭引揚祈念平和公園・資料館 長崎原爆資料館	佐世保市 長崎市 北松浦郡吉井町 佐世保市 長崎市	自衛隊	無料 200 円 無料 無料 200 円	
鹿児島	加世田市平和祈念館 鹿屋航空基地資料館 知覧特攻平和会館	加世田市 鹿屋市 川辺郡知覧町	自衛隊	300 円 無料 500 円	
沖縄	八重山平和祈念館 南風原文化センター ひめゆり平和祈念資料館 沖縄県平和祈念資料館	石垣市 島尻郡南風原町 糸満市 糸満市		100 円 無料 300 円 300 円	

(2) 拠点の類型

わが国の平和・学習拠点を類型化すると、大きくは①資料館・博物館型拠点、②平和公園型の２つがある。また、①と②が複合化された施設もある。

このうち、戦争遺跡を利活用したタイプとしては、戦争遺跡それ自体を資料館・博物館として利活用しているタイプ、戦争遺跡に資料館・博物館を隣接・併設しているタイプ、戦争遺跡を取り込んだ公園などに利用しているタイプがある。

図表 5-2　平和学習拠点の形成事例

区分		事例
(1) 資料館・博物館	①戦争遺物自体を資料館・博物館としているもの	記念艦三笠（神奈川県横須賀市）、陸奥記念館（山口県大島郡）
	②新たな建物に遺品や写真等の資料を展示しているもの	東京大空襲資料センター（東京都江東区）、昭和館（東京都千代田区）
	③戦争遺跡の側に資料館・博物館がたてられているもの	旧海軍指令壕（沖縄県豊見城市）、ひめゆり平和祈念資料館（沖縄県糸満市）
(2) 平和公園	①戦争遺跡を利用して、公園として利用しているもの	丹賀砲台公園（大分県鶴見町）、桜花公園（茨城県鹿島市）
	②慰霊碑やモニュメントを建立して、平和公園として利用しているもの	横網町公園（東京都墨田区）
(3)　(1)及び(2)の複合施設		広島平和記念公園・平和記念資料館（広島市）、長崎平和公園・原爆資料館(長崎市)、沖縄県平和記祈念公園・平和祈念資料館（糸満市）

(3) 拠点の管理・運営の状況

平和・学習拠点の管理・運営については、全国の主要な平和学習拠点に対してアンケート調査を実施した。調査対象は、関係書籍、ホームページなどで把握した戦争遺跡などを活用した国内の主要平和資料館など 20 施設とし、そのうち 16 か所から回答があった。

図表 5-3　回答があった平和・学習拠点

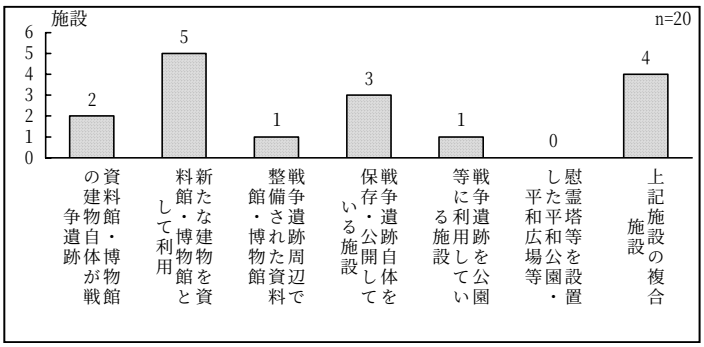
施設名	所在地
埼玉県平和資料館	埼玉県東松山市
川崎市平和館	神奈川県川崎市
岐阜市平和資料館	岐阜県岐阜市
立命館大学国際平和ミュージアム	京都府北区
舞鶴引揚記念館	京都府舞鶴市
大久野島毒ガス資料館	広島県竹原市
知覧特攻平和会館	鹿児島県知覧町
南風原文化センター	沖縄県島尻郡
創造の森森林公園	広島県佐伯郡
旧海軍司令部壕	沖縄県豊見城市
陸軍第十一師団階行社	香川県善通寺市
稲童地区地下司令部壕・１号掩体壕	福岡県行橋市
旧西原役場壕	沖縄県西原町
八幡山地下司令部壕	栃木県宇都宮市
舞鶴市立赤れんが博物館	京都府舞鶴市
入船山記念館（旧海軍呉鎮守府司令長官官舎）	広島県呉市

ア　施設の構成

平和学習拠点の施設の構成としては、新たな建物を資料館・博物館として利用している施設が5か所と最も多く、以下、複合施設4か所、戦争遺跡自体を保存・公開している施設3か所、資料館・博物館の建物自体が戦争遺跡となっている施設2か所、戦争遺跡周辺に資料館・博物館として整備している施設1か所、戦争遺跡を公園などに利用している施設1か所となっている。

複合施設としては、①新たな建物内の資料館・博物館と平和公園、平和広場の組合せ、②戦争遺跡の周辺に新たに建てられた建物内の資料館・博物館と戦争遺跡を平和公園として利用した施設の組合せ、③戦争遺跡をそのまま使用した資料館・博物館と平和公園との組合せ、④戦争遺跡と新しい建物を組合せた資料館・博物館があった。

図表 5-4

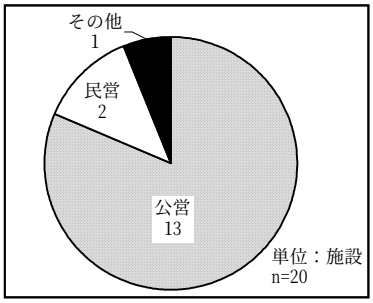


イ　施設の運営・管理主体

施設の運営（設置）は、公営による運営が圧倒的に多くなっている。中でも市町村教育委員会の管理運営が5か所と多くなっている。また、財団法人による運営が2施設ある。

施設の管理については、直接管理している所が13か所と多数を占めた。警備などは別にして民間業者に管理を任せている施設はなかった。

図表5-5　施設の運営主体



ウ　施設建設・整備の経緯(きっかけ)

施設建設・整備の経緯は各施設で様々な結果となっている。主なものを下記のとおりとなっている。

- ○　市民からの要望と生涯学習センター建設が重なって
- ○　平和イベントで集まった関係者からの強い要望があり、それに応える形で
- ○　全国から訪問者が多数訪れるようになったことと国の補助が得られたため
- ○　戦災記録保存事業と公園整備が重なったため
- ○　日本建築学会からの保存の要望があり、それに応える形で

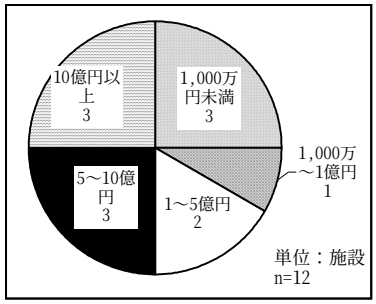
エ　費用

①施設開設費用（初期整備費用）

施設開設のための費用については、施設の規模・建設年次が一様ではないため、比較は出来ないが、最高額は約34億円、最低額は約520万円となっている。10億円以上の施設は3か所あるが、そのほとんどが建物建設費となっている。1千万円以下の施設が3か所あるが、いずれも地下壕等戦争遺跡をそのまま使用した施設で、新たな施建物などは建設していない。

施設開設費用の財源の内訳は、一般財源のほかに補助金や起債などの特定財源を利用した施設は8施設。うち、県補助金を利用しているのが4施設ある。さらに、複数の特別財源を利用した施設が2か所あった（補助金と借入金、補助金と寄付金）。

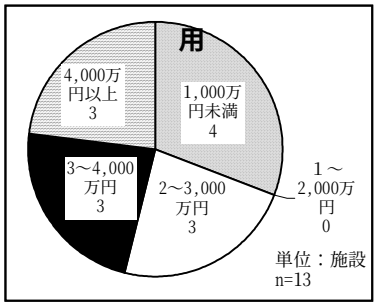
図表5-6　施設開設費用



②年間維持費

施設のタイプ・規模などが異なるため、年間維持費についても、簡単に比較はできないが、最高額が約6,900万円、最低額が0円（見学時の電気代は除く）と、大きな開きがある。年間維持費3,000万円以上の施設は、1か所を除き、建物内の資料館・博物館となっ

図表5-7　施設年間維持費

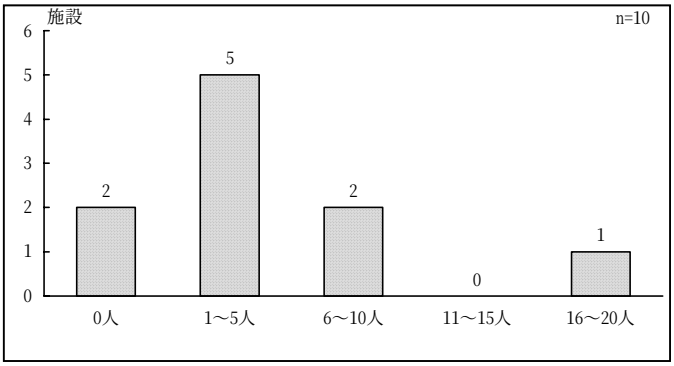


ている。このうち、安全対策についてみると、9施設が安全対策に経費を使っており、最高額は1,300万円となっている。

オ　職員数

施設の職員数（パートを含む）については、1施設当たりの平均職員数は4.7人、最も多いのは、1～5人（5施設）となっている。また、職員規模が比較的大きい施設（6～10人が2施設、16人以上も1施設)、職員を配置していない施設（2施設）もみられる。

図表5-8　施設の職員数



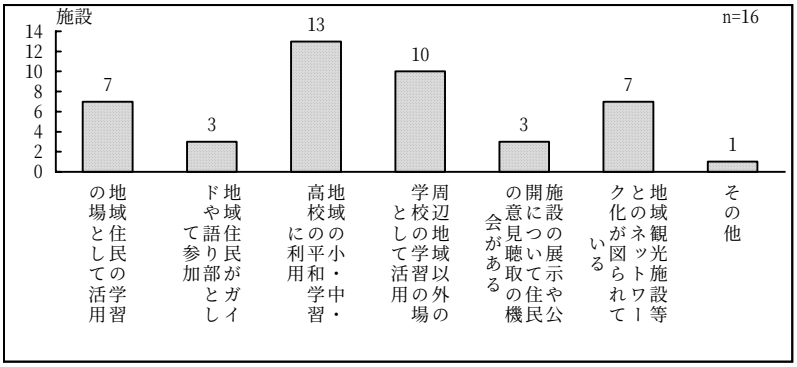
カ　年間入場者について

平成13年度施設入場者数については、施設の規模や知名度・公開期間などにより異なるが、最も少ない施設で約1,000人、最も多い施設で約72万人が訪れている。上位は①知覧特攻平和会館(鹿児島）②旧海軍司令部壕(沖縄)③舞鶴引揚記念館(京都)で、全国的に知名度の高い施設となっている。

キ　地域社会や市民団体との関わりについて

地域社会、市民団体の関わりについては、すべての施設で何らかの連携などがみられた。最も多いのは、地域の小・中・高校の平和学習に利用（13施設）で、以下、周辺地域以外の学校の学習の場として活用（10施設)、地域住民の学習の場として活用（7施設）といった、学習資源としての活用が多い。また、観光資源として、地域観光施設などとのネットワーク化が図られている（7施設）ところも多くなっている。これに対して、施設の運営面における住民の参画については、地域住民がガイドや語り部として参加（3施設)、施設の展示や公開について住民の意見聴取の機会がある（3施設）など、取り組んでいる施設は比較的少なくなっている。

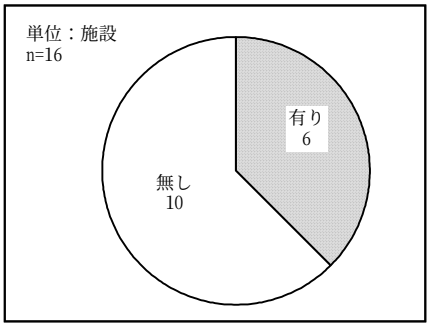
図表 5-9　地域社会・市民団体との関わり



ク　ガイド組織について

ガイド組織については、確保している施設は６、確保できていない施設は10となっており、4割程度の施設で、何らかのガイド（案内）組織がある。ガイド組織の体制については、1人の組織から最大で80名の組織まである。また、ガイド料を取っている施設はない。

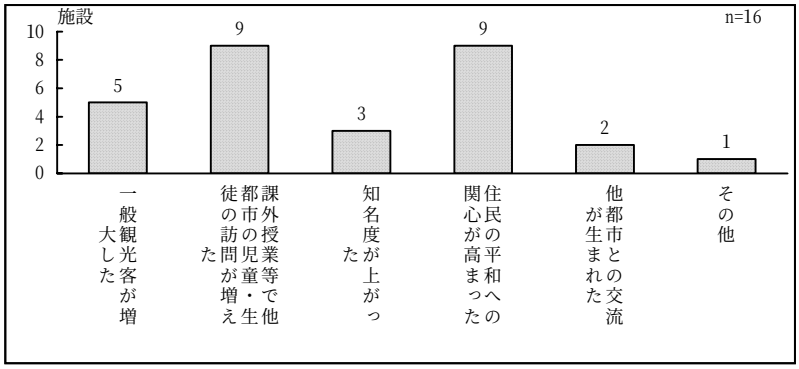
図表 5-10　ガイド組織の確保の状況



ケ　地域社会への波及効果について

平和学習拠点の形成による、地域社会の波及効果については、半数以上の施設が、課外授業などで他都市の児童・生徒の訪問が増えた（9施設）、住民の平和への関心が高まった（9施設）をあげ、次いで、一般観光客が増大した（5施設）が続く。観光・交流面での効果がみられるほか、平和などに関する住民意識の涵養にも一定の効果がみられる。

図表 5-11　地域社会への波及効果

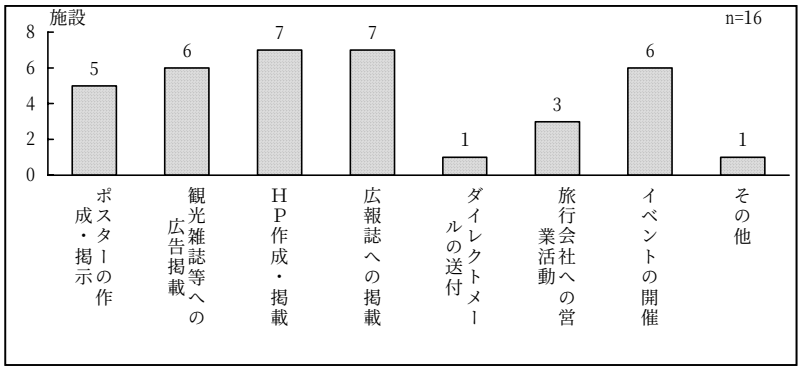


コ　宣伝・ＰＲ方法について

宣伝・ＰＲについては、実施している施設は14、実施していない施設は2となっている。実施している施設の宣伝・ＰＲ方法をみると、ＨＰ作成・掲載（7施設）、広報誌への掲載（7施設）の２つを実施する施設が多く、以下、観光雑誌等への広告掲載（6施設）、イベントの開催（6施設）、ポスターの作成・掲示（5施設）、旅行会社への営業活動（3施設）、ダイレクトメールの送付（1施設）、となている。

宣伝・ＰＲのための活動費は100万円以内に抑えている所が8施設と多いが、最大で300万円かけている施設（1施設）もみられる。

図表 5-12　宣伝・ＰＲ方法について



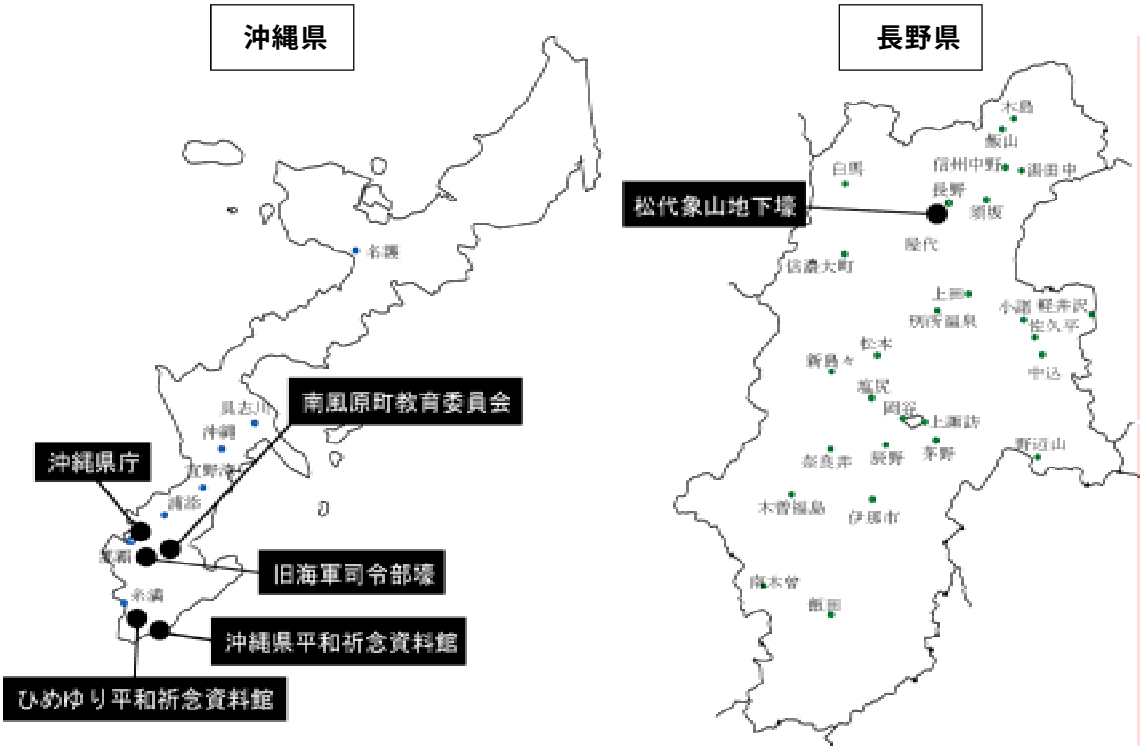
2　戦争遺跡の保存 ・ 活用事例

戦争遺跡の保存・活用に係る先進地の事例把握については、調査研究委員会（委員及び幹事等）による長野県松代象山壕等事例調査及び事務局（幹事等）による沖縄県平和学習拠点等事例調査を実施した。調査の実施概要は、下記のとおりとなっている。

図表 5-13　事例調査の実施概要

区分	日程	摘要
長野市松代象山地下壕等事例調査	平成 14 年 12 月 5 日～6 日	調査研究委員会の委員・事務局（幹事、館山市）により、松代象山地下壕（長野市）の現地視察調査を実施し、その後、長野市役所担当者、ボランティアガイド代表者等から聴取調査を実施した。また、関連施設として、長野県立歴史館、無言館等の視察も実施した。
沖縄県平和学習拠点等事例調査	平成 15 年 1 月 27 日～29 日	事務局（幹事、館山市）により、沖縄県内の旧海軍司令部壕（豊見城市）、南風原町教育委員会(南風原文化センター)、ひめゆり平和祈念資料館（糸満市）、沖縄県平和祈念資料館（糸満市）等の視察調査、聴取調査を実施した。また、沖縄県庁関係課（総務部知事公室平和推進課、土木建築部都市計画課）に対して、沖縄県における取組等についての聴取調査も実施した。

図表 5-14　事例調査の実施概要



(1) 松代象山地下壕（長野市観光課等からの聴取結果）

ア　全体概要について

長野市では、昭和61年から松代象山地下壕などについて、公開に向け調査を実施し、平成元年に臨時公開（70ｍ）、平成2年に公開範囲を拡大（519ｍ）した。舞鶴山、象山、皆神山の3か所のうち、象山を一般公開、舞鶴山は気象庁精密地震観測所として利用している。大部分が借地となっているが、地権者の承諾を得て無償で借りている。今後、文化庁による文化財指定を受けるとすれば、借地料や地上権設定なども考える必要がある。

長野市からの聴取状況

象山壕以外の公開については、舞鶴山は地震観測所として利用しており、地震資料室を公開している。壕内部については、くしゃみや地球の反対側の水爆実験でも感知する精密機械（100ｍの石英管）が設置されているので、年1回の一般公開日以外の公開は不可。また、皆神山は崩落がひどく公開は不可能な状況にある。

イ　基盤整備

現在、管理棟、安全柵、仮設トイレ、照明設備、インターフォン、支保工などを設置。駐車場が整備されておらず、5～11月の修学旅行シーズンになると、大型バスや一般車が路上に無断駐車をするので、市民から苦情がある。駐車場は、真田宝物館又は松代駅に無料観光駐車場が整備されており、そこに駐車して10分間程徒歩で地下壕へ移動してもらっている。今後、地下壕近くに駐車場の整備計画がある。

ウ　安全対策

過去に地下壕の崩落などによる事故はないが、見学者の不注意による転倒などの話はある。事故があった場合は、全国市長会市民総合賠償保障保険で対応するが、自然災害には該当せず、岩盤崩落などの管理者側に過失があった場合のみ適用される。

安全確認の判断根拠としては、鉱山保安技術・資格を有する業者に点検を委託し、報告書により安全を確認している。点検は、年6回精査点検を実施している。2年前までは年4回であった。法的根拠は特になく、安全性の確保を目的に自主的に実施している。精査点検の内容は第3火曜日が休みなので、月曜日の夕方閉門後から火曜日にかけて点検する。点検内容は、目視による観測と棒により岩盤を実際に叩いて点検し、報告書にまとめる。小規模な崩落は棒で叩いて落とし、大規模な崩落の恐れのある危険箇所は支保工により補強する。

安全確認の判断根拠としては、鉱山保安技術・資格を有する業者に点検を委託し、報告書により安全を確認している。

エ　見学者への対応

見学者はここ数年10万人を超える。中高生の課外授業に採用されるケースが増えている。

壕への入退場の確認は、入壕時に人数を自主報告してもらっている。実際にカウントしているわけではない。ボランティアガイドが付く場合はガイドが確認している。出入口が1つであり、立入禁止柵が設置してあるので、道に迷うことはない。閉門時に管理人が終点まで歩いて点検し、壕内に人が残っていないことを確認をしてから閉門する。

オ　職員等

職員については、公益法人であるシルバー人材センターに委託している。職員3名のうち毎日交代で1名配置としている。

カ　保存・活用

文化財の所管は文化課であるが、整備・管理運営は観光課が担当している。文化課は教育面から利活用して発展させようとするが、観光課はどうしても客寄せの材料としてみてしまう。扱うものは同じであるので、どのように連携していくかが当面の課題となっている。

周辺観光地の整備としては、都市計画課で「歴史的道すじ事業」により景観形成整備をしている。長野市景観形成推進事業補助金があり、地域住民が、景観についての研究や良好な景観づくりを自主的に実践している場合、また、それらの団体が景観に関する協定を定める場合、要件を満たしているものは認定し、技術的援助や助成を行っている。

キ　ボランティアガイドの活動

松代文化財ボランティアの会が、ボランティアガイドを結成している。松代文化財ボランティアの会は結成して3年目。市営の真田宝物館（入館料大人500円）内にある松代藩文化施設管理事務所を窓口としている。

活動内容は、①展示ガイドボランティア（真田宝物館の展示を説明）、②文化財調査ボランティア（松代町の文化財を調査し保存する）、③町内ガイドボランティア（来外者に対して松代を総合的に案内する、宝物館来館者対象）の３つがある。象山地下壕は宝物館の周辺文化財（真田邸・文武学校・横田家住宅・象山記念館等）の一つとしてガイドをしている。

ガイドは事務所から500円/人の謝金（交通費）をもらっている。以前は1,000円/人もらっていたが、削減された。また、松代文化財ボランティアの会の他に有料団体が6団体あるが、正確な構成人数などは市でも把握していない。酒屋などが無償でガイドをしているケースもあり、帰りに店によって酒を買ってもらうシステムのようである。有料団体の概要は、各団体とも、手数料として3,000円/回もらっている。

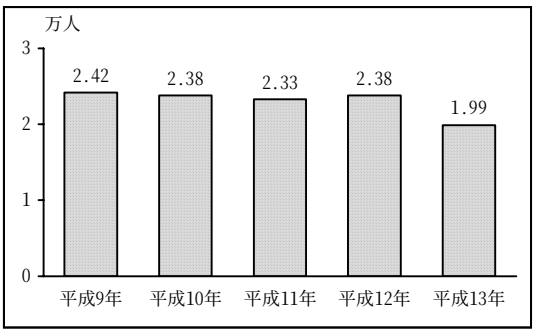
市観光課に問合せがあった場合や、旅行業者からの申し入れに対しては、有料団体を紹介する。行政からのオファーについては松代文化財ボランティアを紹介している。

各団体のガイド内容については、各団体とも様々である。

現在、ガイドは約110名で、平均すると延べ50～60人／月がガイドを行っている。松代文化財ボランティアの会では、年に6～7回の研修会を実施して、資質向上を目指している。

(2) 旧海軍司令部壕（海軍壕公園内）

ア　概要

沿　　革	太平洋戦争時の昭和19年に広大な壕が掘りめぐらされて、その中に、海軍司令部が置かれ、沖縄戦末期には、約4,000人の将校が玉砕した場所である。戦後の昭和33年にこの地に沖縄海軍友の会によって『海軍戦没者慰霊の塔』が建設された。昭和45年には、沖縄観光開発公社によって管理事務所や資料館、売店が置かれ、壕内の公開が始まった。現在は、(財)沖縄観光コンベンションビューローが管理運営を行っている。地上の公園部分については、県都市計画課公園緑地係が維持管理をしている。
休　館　日	年中無休
開館時間	8：00～17：00
入　館　料	【個人】大人420円、小人210円 【団体】大人380円、小人180円
入場者数	過去5年の入場者数は以下の表のとおり 過去5年間の入場者数をみると22～23万人で安定的に推移している。平成13年の減少については、アメリカ同時多発テロの発生を受けて、修学旅行の取りやめが相次いだことによる。 
来館者の属性	20数万人の入場者のうち、3万2千程度が修学旅行生となっている。その他には、50代以上の個人客が多い。
ガ　イ　ド	ボランティアを含めガイドなどは特においていない。壕内は1回5分程度の解説テープを流している。団体によっては、バスガイドが説明をする場合がある。

イ　内容

資　料　館

資料館には、遺族の方から寄贈された遺品を展示している。学芸員はおいていない。資料館内の滞留時間は、一般的には30分だが、中・高校の修学旅行生は、5～10分程度。

①壕内見取り図及び順路

左上写真は壕入口、左下写真は壕出口。現在の順路は、壕見学後ビジターセンターへ誘導するルートとなっているが、将来的には現在の出口側を入口にし入壕前に資料館を見学する順路に変更予定

②資料館内部

【資料館入り口】最後の司令官であった大田少将の写真と沖縄県民の作戦協力について海軍次官宛に送った電報の印刷パネルが設置されている。

【資料館内部】壁面全体を利用し、沖縄戦を解説している。また、中央部には遺品を展示している。

【資料館内展示１】壁面の展示。写真パネルと解説が中心。日本兵の死体写真(顔入り)などもあり、見学者から批判を受けることもある。

【資料館展示２】映像・音響設備は、アメリカ軍が撮影した当時の沖縄戦の映像(無音)を流しているテレビ１台のみ。

資　料　館	 【資料展示３】壕の掘削に使ったつるはしや生活用品を展示。
壕　内　部	 【壕内部１】出口へ続く階段には手すりを設置している。 【壕内部２】照影設備をきちんと整備しているため、中はかなり明るい。また、壕内部は、コンクリートで固められており、当時の状況とはかけ離れている。 【壕内の展示１】当時の状況を描いた絵とともに公開している。立入り禁止 【壕内の展示２】壕内廊下の一部を展示スペースに利用。写真及びその解説。
駐　車　場	海軍壕公園の駐車場バス 12 台タクシー 15 台普通車 30 台
安 全 対 策	①定期点検（1 回／月）：打音検査等簡単な調査。1 回 2 万円程度 ②総合点検（1 回／5 年）：コンクリートの抜き出し等重点調査。1 回 400 ～ 500 万円 ③その他、壕内の一部の補強対策をしている。

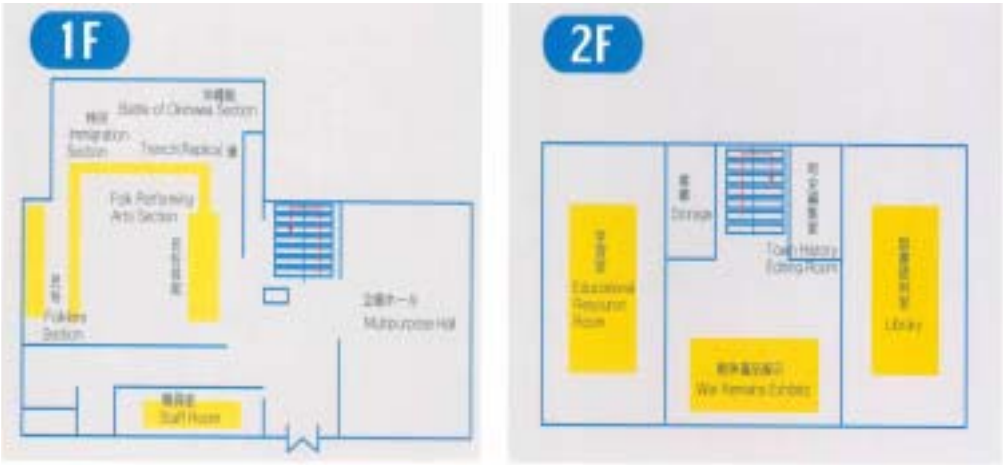
観光と学習	沖縄県観光開発公社が集客のために整備してきたものであるため、壕内の形状や照明の明るさなどは観光客に配慮されている。その一方で、地元では、住民を迫害した旧日本軍の施設という意識が強く、素直に受入れられていない。平和学習拠点というよりも、観光施設としての側面が強い。
課　　題	戦争の事実がなかなか伝わらない。今後、戦争の悲惨さを感じてもらえるよう施設管理や運営上の工夫が必要。 安全対策は配慮されているが、より一層安全対策には徹底をはかる。

(3) 南風原文化センター

ア　概要

沿　　革	昭和 50 年代に病院壕のある黄金森の山を公園整備する計画があり、その際に行われた各字毎の戦災調査を契機に、町民が調べた壕や戦争の遺留品などの資料が収集された。それらを展示する目的で、平成元年に町立施設として開館した。建物は旧給食センターの建物を利用。常設展示室では「南風原と沖縄戦」の他に「移民」、「民俗芸能」のコーナーがある。
休　館　日	水曜日
開館時間	10：00 ～ 18：00
入　館　料	無料
入場者数	約２万～３万人（入館料は無料であるため、正確な統計はとっていない）
来館者の属性	８割の方が県外の方である。修学旅行や労働組合の研修のほか、タクシーに案内された個人客などがいる。
ガ　イ　ド	ボランティアを含めガイドなどは特においていない。但し、その場で依頼を受ければ、学芸員がガイドをする事もある。

イ　内容

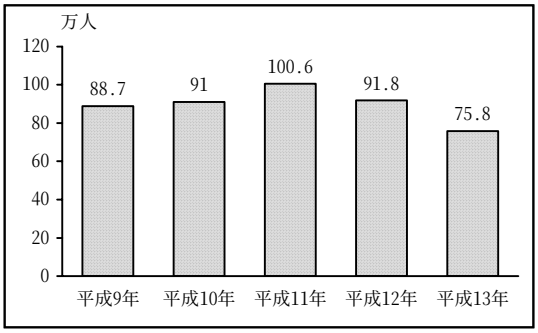
資　料　館	資料館は２階建ての建物である。展示資料は、南風原陸軍病院壕内部で発見されたもの及び個人の方からの寄付によるものが中心。他には、平和学習の成果として地元の高校生が作成した資料やジオラマが展示されている。学芸員が４名在籍しており、企画展など積極的に開催している ①資料館見取り図 

資　料　館	②センター内写真 【センター入口】入口を入ると沖縄を中心に日本列島が逆さに描いてあるタイル床を見る事になる。沖縄と世界との距離を知ってもらう事と本土の人に視点を変えて見てもらうという目的がある。 【“南風原と沖縄戦”の入口】病院壕の入口を再現している。実際に病院壕内部から発見された医療器具などを展示している。 【展示内容１】病院壕の内部を再現している。全て学芸員及び地元の学生による手作り。 【展示内容２】実際に病院壕内部から発見された医療器具などを展示している。 【展示内容３】病院壕のジオラマを抜けると沖縄戦の資料が展示されている。実際の品物とそれを紹介する新聞記事がてんじされている。 【展示内容４】沖縄戦で死亡した南風原出身者の数を示す顔写真。地元の高校生が平和学習の成果として作成。単なる数字ではなく人の写真で表現することにより、戦争の実態を感じさせる狙いがある。
駐　車　場	駐車場無。隣接する役場の駐車場を利用している。
学 習 施 設	学習施設としては、２階に図書・資料室がある。地元の小・中・高校生に利用されている。
観光と平和学習	地元の高校生による聞き取り調査から発展して整備された施設であるため、県内外から人を呼ぶ観光的側面よりも、平和学習的側面が強い施設である。展示は決してきれいではないが、熱心な平和学習・運動の取組の成果が、良くあらわれた展示になっている。また、年に８回も企画展を開くなど学芸員も熱心な取組みをみせている。

観光と平和学習	施設の老朽化により、移転新築が予定され、その施設を基点に黄金森に民俗コース、自然観察コース、平和学習コースを整備し、山全体を博物館として整備する予定となっている。
壕内の公開と安全対策	現在、12か所の壕が発見されており、うち、2か所を貫通させ、見学コースを設定し、人を入れる予定である。公開の是非については、整備検討委員会で検討され、戦争遺跡は実際に体験してもらって初めて意味のあるものだという理由から公開の方向で動いている。 安全対策としては、色々な方法を検討した結果、通路天井と両側面を擬木で結び、それを等間隔ではめていく方法を採用する予定である。

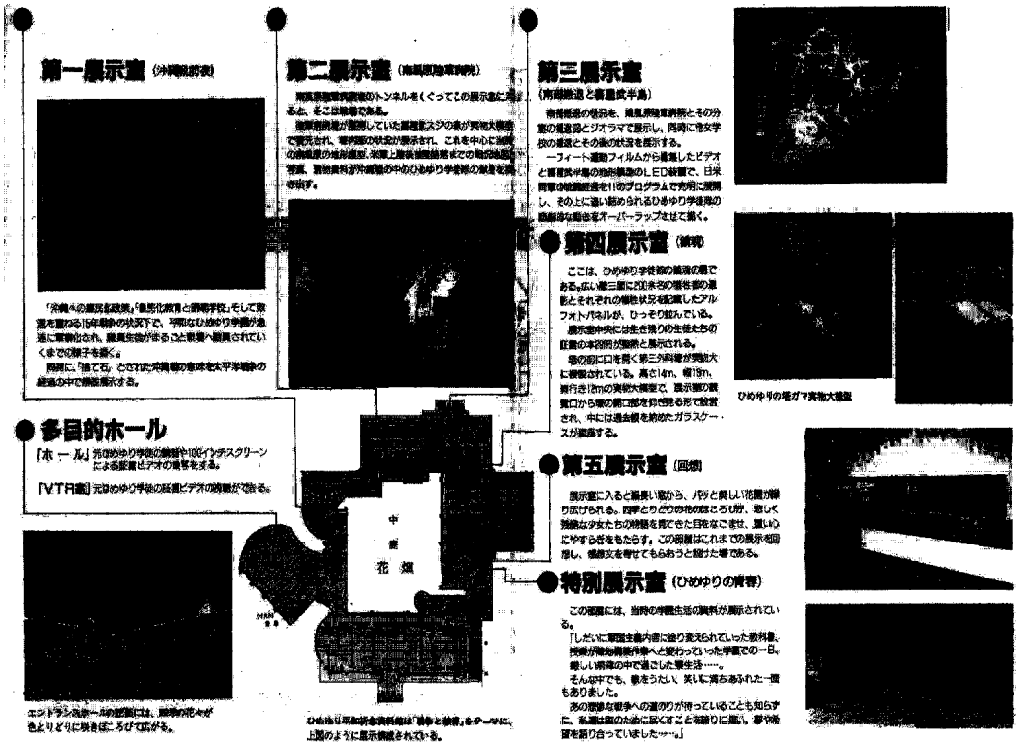
(4) ひめゆり平和祈念資料館

ア　概要

沿　　革	太平洋戦争末期の沖縄戦において、多くの犠牲を出したひめゆり（県女子師範学校・県立第一高女が中心）学徒隊の生き残りの人たちが中心となって、平成元年の6月23日（沖縄慰霊の日）に開館。資料館建設に当たっては、ガマの公開をめぐって様々な論争があったが、結局、ガマの公開は認められず現在の地に建設される。 開館以来順調に来館者を増やし、平成４年には、講話や展示、ＶＴＲ設備を備えた多目的ホール（200名）を増築するに至っている。 また、平和に関する様々な業績がみとめられ、平成２年には沖縄タイムス文化賞、平成４年には菊池寛賞を受賞するなどしている。 国連発行の「世界平和博物館」にも掲載されている。
休　館　日	年中無休
開館時間	9：00～17：00
入　館　料	【個人】大人　300円、高校生200円、小中学生100円 【団体】20名以上10％割引
入場者数	過去５年の入場者数は以下の表のとおり。過去５年間の入場者数をみると88万人～100万人で安定的に推移している。平成13年の減少については、アメリカ同時多発テロの発生を受けて、修学旅行の取りやめが相次いだことによる。 
来館者の属性	個人と団体の割合は65：35となっている。 団体の内訳は大人40％、高校生42％、小中学生18％となっている。学生の地域別入館者数は小学校で沖縄68％、九州14％、関東13％、以下近畿、中国が各2％となっている。中学校では、近畿34％、九州25％、中国20％、四国12％、以下関東、東北各2％、東海1％となっている。高校では、関東45％、信越、東海各11％、近畿9％、東北8％、四国6％以下各地方数％程度となっている。
駐　車　場	一応あるが、連接する土産物屋や食堂に停める人が多い。団体客は観光バスを停めさせてもらう代わりに食事をそこで取るようにしていることもある。

イ　内容

資　料　館	資料館は特別展示室を入れると６室ある。第１展示室では沖縄戦の前の時代を、第２展示室は南風原陸軍病院をテーマに、第３展示室は南部撤退をテーマに、第４展示室では鎮魂をテーマに、第５展示室は回想をテーマに今までの展示について考えてもらうスペースとなっている。特別展示室は、当時のひめゆりの学園生活についての資料が展示されている。（詳細は下示パンフレット参照）
語　り　部	資料館内には基本的に語り部の方が常駐している。語り部の方は、ひめゆり学徒隊の中から幸運にも生き残られた方々で現在16名で交代で活動をしている。 一方的に話すのではなく、展示の前で、見学者の質問に答えながら、当時の状況、経験を話している。当時を経験した人の生の話ということで皆真剣に話を聞いている。また、感想文の反応をみて、語り部の方々もその意義を再認識している。 また、館内でお話をするだけでなく、依頼を受ければ、宿泊先のホテルなどに出向いて話をすることもある。
観光と平和学　　習	資料館は、戦争を知らない世代が過半数を超え、戦争体験が風化しつつある今日に戦争体験を語り継ぎ、戦争の実相を訴え続けることで、尊い命を失った生徒や職員の鎮魂となることを信じ、それを目的として開館した。そういう意味では、観光施設というより平和教育・平和学習施設の側面が強い。しかし、好むと好まざるとに関わらず、多くの人が訪れ、周りにはお土産屋が建ち並び、観光地化されてしまっている。 本来、鎮魂の部屋であるべき第４展示室には、修学旅行生の歓声が入り乱れ、とても心を落ち着いて見学することが出来ない状態となっている。
課　　題	やがて消えゆく語り部の方々の証言をいかに記録、公開させていくべきか。 周辺地域の観光地化に対してどう折り合いをつけていくのか。



(5) 沖縄県平和祈念資料館

ア　概要

沿　　革	昭和50年に沖縄戦について学び、平和について考える事を目的に県立平和祈念資料館が開館した。その後、施設の老朽化及び本土からの修学旅行生の受け皿として機能的に不足をきたしてきたことなどから、平成12年現施設に移転改築した。施設は、平和祈念公園の中心部に位置し、“摩文仁の丘”や“平和の礎”などの平和施設と一体となって沖縄の平和拠点を構成している。 摩文仁の丘から資料館を望む
休　館　日	月曜日、年末年始
開館時間	9：00～17：00
入　館　料	【個人】大人300円、小人150円　※障害者については無料 【団体】20名以上　大人240円、小人100円
駐　車　場	公園駐車場バス20台、タクシー38台、普通車360台
入場者数	平成13年度　33万6千人 平成14年度　30万5千人（12月現在） 平成13年度はアメリカの同時多発テロにより、秋以降旅行者が減少したが、今年度は回復している。月平均３万４千人の入館者がある。
入館者の属性	〔個人と団体〕　平成13年度40：60、平成14年度32：68 〔大人と小人〕　平成13年度55：45、平成14年度37：63

イ　内容

資　料　館	１階部分と２階部分とからなる。 １階部分は“未来を展望する”ゾーンとして無料で開放されている。対象は主に児童・生徒であり、未来を担う子どもたちが積極的に平和を愛する心を育むために３つのテーマで展示がなされている。 第１は様々な国の子ども達の学校の様子や遊びの事を紹介する展示。第２は、今現在地球上でおこっている紛争や戦争、環境破壊を紹介する展示。これは、その原因や解決策を考えてもらうことを目的としている。第３は、遊びを通して多様性と共通性に気づき、異文化を認め合う場所として機能することを目的に実際に物に触れられる展示をしている。 さらに、観覧後の疑問を調べるための情報ライブラリーが整備されている。 ２階部分は“歴史を体験する”ゾーンとして有料観覧となっている。来館者が沖縄の歴史を体験して平和の尊さや戦争の悲惨さを知り、将来の継承してもらう狙いがある。 全部で５つの展示室の分けられており、それぞれ“沖縄戦への道”、“住民から見た沖縄戦－鉄の暴風－”、“住民から見た沖縄戦－地獄の戦場－”、“住民から見た沖縄戦－証言－”、“太平洋の要石”をテーマに映像やジオラマを使って戦争の悲惨さを訴えている。

資　料　館	
ガ　イ　ド	館内ガイドについては、配置していない。但し、依頼があった時は、学芸員が対応することもある。 また、語り部などの依頼があるときは、７つあるボランティア団体のリストを紹介している。(個別の団体は紹介していない)
観光と学習	“ 摩文仁の丘 ” や “ 平和の礎 ” と一体となって沖縄の平和拠点となっていることもあり、慰霊目的の人や修学旅行、観光客など幅広い層の入館がある。駐車場やトイレ、案内板などもよく整備され、観光施設としての受け皿の機能も十分備えている。 その一方で、１階の無料施設は地元沖縄の小・中学生に活用されており、地元の平和学習にも貢献する施設となっている。 観光的側面があることは事実だが、平和学習機能を十分果たしている施設といえる。